

「健康で心豊かに長生きをしましょう。」

平成 29 年 4 月 27 日  
村山 章

「健全なる精神は健全なる身体に宿る」という格言は、小学生の頃、校長先生が盛んに言っておられた記憶があります。解釈はさまざまあるようですが、最近では身体障害者に対する差別用語と捉えて、口にしない人は少ないようです。でも、基本的な考え方は、与えられた環境のなかでいかに誠心誠意、謙虚に努力して生きるかにあると思います。障害のあるなしが問題なのではなく、ある人もない人も一日一日を大切に、真善美を目指していかに生きるかが大切だと言っているのです。それを、身体障害者に対する差別用語と考えるのは間違いではないでしょうか。障害があってもなくても、自分を律して自己管理をちゃんとやらなければ健康を持続できません。もともとこの格言は、古代ローマ時代にユウェナリスという詩人が綴った言葉から生まれたようで、地位やお金や名誉ばかりを求めて生きるのではなく、健全な精神と身体を大切に生きることを勧める気持ちがあったようです。

一日、一生懸命に仕事をして、ほどよい疲れを感じたときなどは、まさに満ち足りた充足感を得ることができます。お金のために仕事をしている人は、この大きな満足感を得ることができないのではないかと思います。生活の糧を得ることももちろん必要ですが、仕事を通していかに自分が成長できるかに関心をもつべきです。目先の損得だけを判断の基準にしたり、少しでも自分がラクしようとして仕事を選ぶ人は、成長などできません。まして、それが当たり前と思っている人は不幸な人と言ってよいでしょう。一生懸命に仕事に励む日々の行いは、結果としてより大きな社会貢献にもつながります。誠心誠意、謙虚に努力して、さらに周りの方々と信頼関係を築くことが自分にとっての大きな幸せにつながります。

リーダーシップとは敬服される状態、尊敬され服従される状態だと言われます。私にとっては難しい目標ですが、一生の課題として取り組んで行きたいと思います。